



広島市歯科医師会だより



2月号

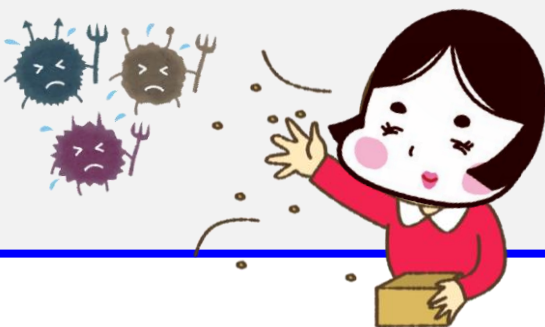
Hiroshima City Dental Association

No.154 (R2.2.12)



目次

新年互礼会	1 ページ
行事報告	
広島市歯科医師会第2回 学術講演会(シリーズⅡ)	3 ページ
広島市学校保健会専門委員会 第1回 歯科保健対策委員会	3 ページ
保育園児保護者対象むし歯予防教室	4 ページ
支部長・副支部長自己紹介	
(波田佳範中区支部長・香川次郎中区副支部長・角田達彦西区支部長・竹田芳弘西区副支部長)	5 ページ
会長コラム『柔しく剛く』	9 ページ
支部だより	
中区支部	10 ページ
東区支部	11 ページ
南区支部	12 ページ
各部からの報告	
広島市医療安全推進協議会よりーこんな医療トラブルが起こっていますー(総務部)	13 ページ
学校の管理下の災害における歯の負傷	
後編 「歯牙破折」の発生状況、「歯牙障害」の具体例等について(地域歯科保健部)	14 ページ
今月の知っておきたいこと(広報部)	17 ページ
FM ちゅーピー(広報部)	20 ページ
誰もが納得！ I L♥ve 広島弁じゃけえ。(広報部)	20 ページ
会員ひろば	
新入会員紹介	21 ページ
1月定例理事会報告	22 ページ



新年互礼会

今年もよろしくお願ひします。



「あけましておめでとございます！」「今年もよろしくお願ひします！」あちらこちらで年始の挨拶が聞こえる中、受付を済ませた後、会場のハーモニーホールに足を踏み入れた。令和2年1月4日土曜日の新年互礼会だ。

あれ？いつものステージが 緞帳で締め切っているし、なんだか様子が違うぞ・・・ま、いいか。辺りを見回すと若い先生が多い感じがするな・・・あ、あそこは新入会員の先生の席か。歯科医師会の平均年齢も高くなってきてるし、これからは若い力が大切になってくるだろうな。そう思いながら隣の先生と話をしていると定刻になったお知らせと同時に会場の明かりが落ちてステージの真ん中にスポットライトが照らされた。

「なんだ？」「何が始まるんだ??？」

オープニングは太鼓ユニット我龍の曲が流れる中、おりづるタワーにも作品を寄贈されている書道家 Hiro こと河内裕美氏による書道パフォーマンスが新入会員含め101名の出席者を前に始まった。熊谷宏会長の基本方針である「柔しく剛く」を2m四方の台紙に書き上げる姿は、パワフルかつ妖艶で出席者を魅了した。

「いつもの新年互礼会と違うじゃないか～。なんか良い感じだなあ。」

能美和基専務理事の開会の辞に続き、国家「君が代」ならびに「広島市歯科医師会会歌」の斉唱が行われた。熊谷宏会長の年頭の挨拶の後、甲野峰基県歯会会長と岸田文雄衆議院議員からご祝辞を頂戴した。

続いて鏡開きと併せて来賓でお招きした方々の紹介を行った。鏡開きでは、株式会社小泉本店の「御幸広島特撰」が振る舞われた。

引き続き松井一實広島市長が乾杯の発声を行い、祝宴が始まった。今年は新入会員の中から川越亮利氏・柄博紀氏・中西茂氏・千田禎氏・光山素夫氏・河島紘太郎氏・本川雅英氏の7名が参加し、自己紹介を行った。

談笑が続く中、午後7時過ぎに瓜生賢副会長の閉会の辞で終了した。

・・・なんか、あつという間の新年互礼会だったな。いつもなら先輩の先生方が多いのに、若い先生が最後の方まで残っているいろいろ話をしているのは、なんか新鮮だったなあ。そういえば今年はねずみどし。子年の子は子供や種子を表す文字だし種まきの年と考えたら、若い先

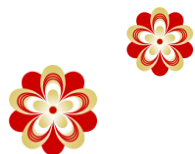
生がこれから芽を出せるよう先輩の僕たちがしっかりしなくちゃね。そう思いながらハーモニーホールを後にした。

本年度の新年互礼会は、書道家を迎えた書道パフォーマンス、鏡開きを加えて従来と形式を変えて行われたが、新入会員をはじめ、参加された先生方は最後まで心から

楽しい時を過ごされているように見受けられた。来年度も会員の歯科医師会への帰属意識が高まるような、また、会員の福祉・厚生や保健、相互の親睦等に寄与できるような新年互礼会を企画しますので、参加できなかった先生方は来年是非ともご参加いただきたい。



書道パフォーマンスをする書道家
Hiro こと河内裕美氏



挨拶をする熊谷宏会長



鏡開きの様子



行事報告

広島市歯科医師会第2回 学術講演会(シリーズⅡ)

12月から年をまたいで3回シリーズで行っている第2回学術講演会の2回目の講演が1月9日(木)午後7時30分より県歯会館2階「ハーモニーホール」で行われた。講師は1回目と同じく中区で開業されている吉岡俊彦氏で、「髄腔開拓と根管形成」について御講演頂いた。

今回から広島市歯科医師会会員が開設管理する診療所の専任勤務医に関して、聴講料を頂くことで参加することが出来るようにした。そのため、聴講者は1回目を上回る120人であり盛況であった。

まず髄腔開拓と根管形成、それぞれの目的の話があった。次に髄腔開拓の重要性の話があり、冠部歯髄腔の感染物質の除去、根管探索や根管形成を行いやすい形態にすることを意識し、それを実行するための具体的な手法について解説された。特に、一昔前に大学の授業にて習っていた髄腔開拓とは異なっており、初見の聴講者にとっては目から鱗であった。髄腔開拓におけるトラブルとして「想定した深さで露髄しない」「不必要な所を削合してしまった」「時間が無い！取りあえずどこで一旦終わりにしたら良いの？」などがあるが、それについての具体的な対策などの回答をされた。

髄腔開拓に続いて根管上部の根管形成の話があり、複雑根管歯において解剖学的にデンジャーゾーンと呼ばれる特に穿孔に注意すべき場所があるという説明がなされ、そこにおける具体的な器具の操作方法などの教授が行

われた。

最後に、根尖部の根管形成についての話に移り、作業長の決定は、論文の紹介を交えながら吉岡氏の考え方、やり方の話が示された。根管形成時の起こりやすいエラーで、ジップ及びジップからの穿孔、レッジ及びレッジからの穿孔等をあげられた。ファイルの動かし方として、リーミング、ファイリング、ウォッチワインディング、ターンアンドプル、バランスドフォースの5種類があり、その内で行ってはいけない動かし方やレッジを作りやすい動かし方等があるので注意が必要であることについても説明がなされた。

盛り沢山の内容で少し時間がオーバーしたが、会場の熱気などもあり時間を感じさせない講演であり明日からの診療で活かせる内容だった。



講演の様子

広島市学校保健会専門委員会 第1回 歯科保健対策委員会

1月24日(金)午後7時15分より中区地域福祉センター5階「ボランティア研修室」において広島市域4歯科医師会、学校及び教育委員会の健康教育担当者などを集め標記の会が開催された。本会より熊谷宏会長、能美和基専務理事、有馬隆理事、濱岡代枝氏が出席した。

(1)健康診断についての意見交換

情報提供：平成31年度学校保健統計調査速報値について(安芸歯科医師会 山田純理事)

(2)臨時健康診断結果の「お知らせ」の様式について

(3)歯科保健実態調査(所謂、口腔崩壊の実態調査)について

情報提供：広島口腔保健センターでの日帰り全麻治療について(安佐歯科医師会 佐久間信彦理事)

会議の冒頭で同委員会委員長を務める熊谷会長は、「歯科医師会と学校が協働して広島市の子どもたちの健康づくりを目指す」とする等の基本方針を示した。続いて協議に移り、有馬理事の進行で主に以下の項目を扱った。

(4)平成 30 年度「学校管理下における児童生徒等の災害に対する災害共済給付の状況」について(能美和基専務理事)

(5)広島県の保育施設での歯科疾患及び歯科保健活動の実態調査について(有馬隆理事)

(6)大塚小学校での「食後の歯みがきの定着を目指す取り組み」について(発表 安佐歯科医師会 山田泰生先生、
総括 佐伯歯科医師会 大原将史理事)

(7)日本学校歯科医会「全日本学校歯科保健優良校表彰」について(広島県歯科医師会 上田裕次理事)

各項目について活発な議論、情報交換を行った後、板
木和幸小学校教育研究会健康教育部会部会長が閉会の辞
を述べ終了した。



委員会の様子

保育園児保護者対象むし歯予防教室

1月25日(土)午前11時より宇品東保育園において広島市こども未来局の依頼により、有馬隆理事(学校保健担当)が「フッ素を利用したむし歯予防法について」と題する講演を行った。

講演では、フッ素塗布やフッ素ジェル、フッ素洗口などのフッ素を利用したむし歯予防の重要性について解説するとともに、保護者による仕上げみがき、規則正しい食生活、間食の選択、かかりつけ歯科医院での定期健診の意義等についても解説した。また、咀嚼力判定ガムを用いた保育園児対象の食育教室の内容を紹介し、カミング30など「噛む」ことの大切さについても説明した。

保護者からは、「フッ素は何歳になってから始めたらいいですか」、「歯みがきを嫌がるので良い方法を知りたい」、

「歯の矯正はいつから始めたらいい？」など、多数の質問が寄せられ、子どもの歯と口の健康への関心の高さが窺われた。

地域歯科保健部では今後も、地域の保育施設や幼稚園からの講演依頼にも積極的に対応することとしている。



教室の様子

支部長・副支部長自己紹介

波田佳範中区支部長

みなさんこんにちは。現在広島市歯科医師会中区支部支部長を拝命しております波田佳範です。中区支部運営に携わりまして、10年(副支部長1期、支部長5期)を越す歳月が流れました。その間、会の事務局は中区富士見町から、東区二葉の里へと移転し、元号は平成から令和へと移行し、歴代会長は四代(森本克廣元会長、土江健也元会長、川原正照前会長、熊谷宏会長)に亘り、その時の執行部に仕えて参りました。



「長男とともに」(ついに身の丈まで越されてしまった)

諸兄に支えられてきたわけですし、現在もそうです。誠に感謝に堪えません。

顧みれば、中区支部運営に関与した当初は、右も左もわからなかったわけですが、現在になっても自信が持てません。しかし、支部長を長く務めることにより、各支部の認識の変化を感じるようになりました。その一例を挙げれば、各支部の地域保健対策協議会(地対協)による多職種連携会議やソフトボール大会への参加などは、当初各支部の支部長が代わるたびに、その必要性を理解してもらうのに、時間がかかった記憶があります。

最後に国内外の情勢、また歯科医療界の情勢は、日々夥しく変化しています。将来に対する不安を感じつつも、支部のために、会のために何ができるのかを自問自答しながら、粉骨砕身の覚悟で臨んでいく所存でございます。

未だに浅学菲才の身ゆえに、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



「(不)名誉の負傷」 (担いでいる選手達は、入会時の際面談を行った先生方である。)

さて、中区支部の概要を説明いたしますと、診療所の存

在する地域により4つの班に分かれ、現在の会員数173名(令和2年1月4日現在)。これは、安佐歯科医師会、呉市歯科医師会の会員数に匹敵する規模でございます。当然、この規模を一人で動かしていくことは不可能です。それ故に、いろいろな有能な幹部役員に支えられてきたこと、きていることは、言うまでもありません。その一例を挙げれば副支部長では、石嶋誠司氏(1期)、三次みさと氏(3期)、香川次郎氏(現在)という諸姉



「歯科医師会で何かと衝撃と影響を受けた先輩の一人」

香川次郎中区副支部長

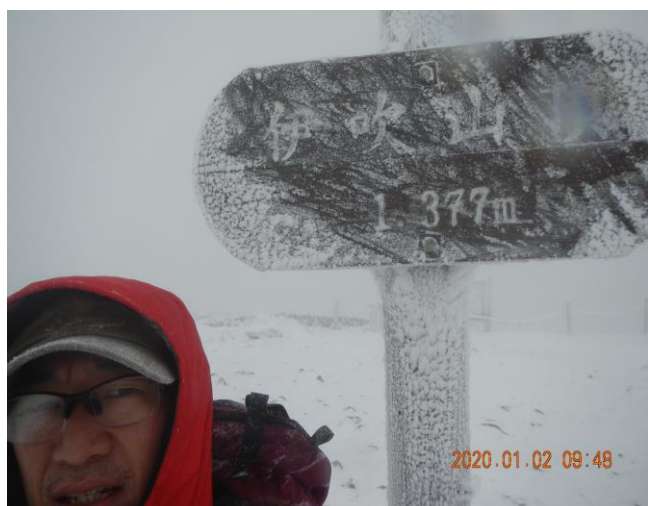
広島市中区の副支部長をさせていただいております香川次郎です。

お正月は副支部長の務めとして、ソフトボール大会Bクラス昇格を祈願し、伊吹山に登って参りました。皆さんは伊吹山を知っていますか？妻の実家が近くなのでよく登りに行くんですが、滋賀県と岐阜県をまたぐ標高1377mのお花畑が綺麗な山なんです。ただ、標高こそ低いですが冬になると大変雪が積もる豪雪地帯となり、人を寄せ付けません。伊吹山は1927年に積雪量11m82cmの世界記録を持っています。1974年には1



2019年は1月1日に登頂(快晴)

日の積雪量2m30cmを記録し、こちらも世界記録となっています。妻が子供の頃はスキーを履いて小学校に通ったり、雪が多い年には2階から出入りした事もあるそうです。私がかまくら作りや屋根の雪下ろしを



2020年1月2日 伊吹山山頂

何度も経験させてもらいました。そのような山なので、私のような素人が冬期に単独で登るには厳しく、雪が深く5合目までも行けなかったり、吹雪いてルートが判らなくなったり、雪崩や滑落が恐ろしくて引き返したりしてたんですが、何年も登っているうちに条件が良ければ山頂に立つ事が出来るようになりました。今年は異常と言えるほど雪が少なく、スノーシューもアイゼンも履く事もなくあっけなく登れてしまいました。山頂は晴れば琵琶湖を見下ろす絶景ですが、常に日本海からの季節風が吹き荒れており、のんびり景色を楽しんだり写真を撮ったりしている余裕はありません。今年は吹雪いて景

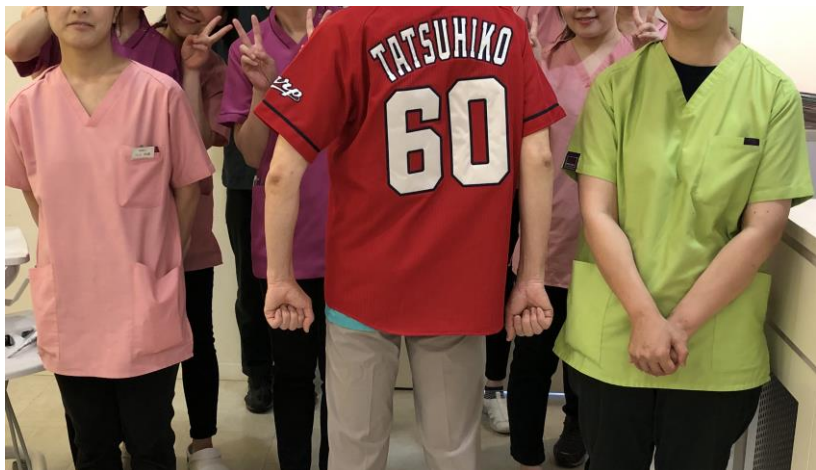
色は何も見えませんでした。登頂に満足し昇格を祈願して下山しました。年々体力は衰えておりますが、今後も十分な装備と計画で無理せず安全第一に登りたいと思います。支部のソフトボールもあと何年くらいできるか判りませんが、今年も中区支部の先生方と練習から楽しもうと思っています。



凍てついた山頂小屋とエビの尻尾

角田達彦西区支部長

西区支部長を昨夏から受け継ぎました角田達彦です。支部の集まりにあまり出でず、会務からも長く離れていた私にとって昨年はまさに節目の年となりました。1月に本会会員母和子が亡くなりました。良くして頂いた懐かしい先生方に行事で久しぶりにお話しできるようになり子供の頃を懐かしく思い出します。厚く御礼申し上げます。私と同学年の天皇御即位があり還暦で干支一回りし最初の年が令和元年となりました。



還暦祝い頂き感謝！

ました。二回り目一歳児として皆さんの為に努力致す決意です。還暦を迎え、体力記憶力の低下を大変感じております。皆さん助けて頂きますよう何とぞよろしくお願い致します。これまで健康法を色々試し若作りしておりますが、鼻うがい失敗から蝶形骨洞炎になり十余年前から臭いは感じず、老眼もひどく、耳も遠くなってきました。体もあちこち痛くなり、しばらく離れていたヨガをまた始めようかと思っております。飛行機を使った旅行も好きで海外の歯科グループに参加し課題もやりきったのですが、失敗経験多くマイルだけは沢山残りました。マイラーの方や旅行好きの方にアドバイスを頂ければありがたいです。今は



二回り目1からスタート！

医院モニターに映す花や庭の写真を撮るのが小さな趣味です。加えてこれからお茶や能に詳しくなっていきたいとご助言頂ければ嬉しいです。最後に支部長として、一つ、医科歯科多職種連携。二つ、医療安全や法的事項、歯科のあり方を充実整理する。の二つを進めて行けるよう強く思っております。



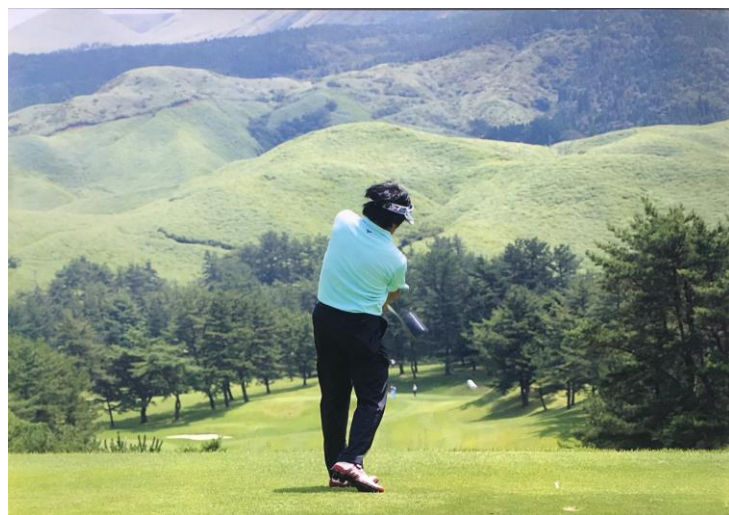
祝いの席で家族と

竹田芳弘西区副支部長

この度、西区支部副支部長に就任しました、竹田芳弘と申します。何かと不手際があると思いますが、良い経験をさせていただく事に感謝し、角田支部長の手助けが出来ればと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

私は、三次で生まれ、修道高校(32 回生)卒業後、広島大学歯学部(16 回生)を経て、現在は西区井口台で開業 27 年目になりました。県の医療管理部、青申会にお世話になり、今でもOB 会に呼んでいただけることに感謝しております。

趣味は、ゴルフ、テニス、アウトドア、家電、釣りなど、広く浅く続けておりますが、年齢のせい、膝痛、腰痛に悩まされる日々を送っております。



大山にて

ゴルフは、片手シングルになるまで頑張りましたが、今は腰痛で 100 を切る程度のゴルフしかできません。しかし普段、話もできない大先輩や後輩、他職種の方々との交流が出来るのはゴルフならではのので、復活を夢にこれからも続けていくつもりです。

西区支部ゴルフコンペを再開できるよう、若い先生方もゴルフを始めましょう！



沖縄にて



備北丘陵公園でキャンプ

今月は、会長方針における「学術団体としての基本に立ち返る学術研修活動の充実」について書いてみたいと思います。

今回、学術部をお願いした花岡理事には、①学術講演会は何回実施してもかまわない。できる限りの予算処置をするので思い切りやって欲しい。②先端技術や高度技術だけに偏らず、会員のさまざまな臨床レベルに合わせ、日々の臨床に直結する講師・テーマを選んで欲しい。などをお願いしました。

学術部では早速委員会協議を重ね、新執行部第1回目の学術講演会を、11月10日に、新進気鋭の兵庫県西宮市開業の米澤大地先生をお迎えし、「一口腔単位の治療への挑戦～部分矯正から、包括的診療まで～」と題して開催しました。快くお引き受け頂き、素晴らしいご講演を頂いた米澤先生には改めて感謝申し上げます。

ついで、本会会員で中国四国地方において唯一の根管治療専門医である吉岡俊彦先生に、「一から見直す根管治療の基本術式」と題し、3ヶ月連続の3回シリーズをお願いしているところです。根管治療というと、高価な顕微鏡や特殊機器を用いた講演会が業者主導で行われていますが、まずは

全ての会員の明日からの臨床に役立つ基本術式についてご講演頂く様お願いしました。第3回目は2月6日(木)に予定しております。また、5月には大物講師による学術講演も予定しています。詳細が決まり次第ご案内しますのでご期待ください。

さて、学術講演の充実に伴い、会員より「自分の家族である歯科医師や、自院の勤務医を聴講させたい」、といった希望が寄せられるようになりました。従前は、公平性の観点からすべてお断りしてきました。しかし、要望が増えてきたこと、未入会の先生に歯科医師会の魅力を知ってもらい入会促進につなげる観点などから、参加の是非について理事会で慎重に協議して参りました。同時に、昨年12月5日開催の学術講演会参加者に対してアンケート調査を実施したところ、アンケート回収44名中「会員以外の参加を認めない」が3名、「無条件で参加を認める」が26名、「聴講費を支払うことにより参加を認める」が15名という結果を得ました。

これらを踏まえ、まずはトライアルとして、吉岡先生の第2回、第3回講演について、一定の条件

会長コラム (第7回)

柔しく剛く

広島市歯科医師会における
学術研修事業について

熊谷 宏

(本会会員の診療所の専任勤務医であること。事前予約が必要であること。聴講料を頂くこと。)で、ご参加頂けるようにしました。ご異論もあろうかと思いますが、トライアルとしての実施であることをご理解頂き、ご意見頂きたいと思えます。

ちなみに、他郡市地区歯科医師会会員については、歯科医師会の仲間ですので、本会会員優先の原則の下、県歯会を通じて他郡市に周知するかどうかをその都度判断しています。なお、保険講習会については、今後も会員のみの対象と考えていることを申し添えておきます。

今後とも、会員の先生方の日々の診療に寄与する学術講演を企画して参りたいと思えますので、ふるってご参加ください。

支部だより

中区支部

歯周病予防教室

1月15日(水)午前10時より中区健康長寿課の主催で中保健センター4階「栄養相談室」において歯周病予防教室が開催され、前田羊一地域歯科保健部委員長が「歯周病予防と栄養について」と題して講演を行った。

参加者は「中区すこやか食生活推進リーダー」「中区食生活改善推進員」であった。

すこやか食生活推進リーダー・食生活改善推進員とは？

「すこやか食生活推進リーダー」と「食生活改善推進員」は、広島市が開催する講座を受講し、広島市の健康づくり計画「元気じゃけんひろしま 21(第2次)」の「栄養・食生活」分野や「第3次広島市食育推進計画」を推進する方々です。各区で食育推進活動をしています。

(広島市ホームページより)

そしてまた、広島の郷土料理や地域食材を使った、「元気じゃけん定食」レシピを作成されている方々であった。このうち「すこやか食生活推進リーダー」は栄養士ならびに管理栄養士の有資格者であり、「食生活改善推進員」は健康づくりのための栄養・食生活改善の推進について理解

と協力を得られるボランティア活動者ということであった。

講演は通常の歯周病予防だけでなく、参加者の属性も考慮して厚生労働省が作成した「食事バランスガイド」を用いて望ましい食事の摂り方やおおよその量を示すなど、食生活や栄養摂取に重点を置いたものとなった。講演後の質問も食事や栄養に関することのみならず、嚥下にまで及び、関心の深さをうかがわせた。

当支部では今後も歯周病予防ならびに健康増進のため、啓発を続けていく所存である。



教室の様子

令和元年度中1班班会

1月17日(金)午後7時より中華料理店「好」において山本正純氏の司会進行の下、熊谷宏本会会長より来賓挨拶が行われ、引き続き波田佳範中区支部支部長による乾杯の音頭で宴が始まった。

令和2年を迎えた昨今、3月には、保険改定の講習会を控えていることもあり、出席されていた県歯会保険部の森本進氏に、一向に暴騰が収まらない歯科用金属の動向や、それに対する代替えなどの問い合わせが集中しているようであった。

また今年は、オリンピックが開催されることもあり、これから採用されるのではないかという新卒の協議などいろいろと話題が尽きぬのであった。

後藤眞也氏による閉会の辞の後、料理長を囲んでの記念撮影を行い、お開きとなった。



中1班班会に出席した熊谷宏会長と能美和基専務理事と中一班の会員

第6回 中区在宅医療・介護連携研修会

1月24日(金)午後7時よりオリエンタルホテル広島4階「ボールルーム」において標記の会が開催された。小西太中区医師会理事の司会進行の下、正岡亨中区医師会会長の開会挨拶があり、またこの講習会の趣旨説明が行われた。

講師に、「社会福祉法人広島YMCA 福祉会YMCA 訪問看護ステーション・ピース」より、濱本千春所長を迎え、「小児から大人までの在宅医療について」という演題で行われた。内容は主に在宅での重度の障害を抱えた小児の在宅での医療・看護・介護などのものであった。

講演を聴くことにより、高齢者・障害者の在宅医療とは違う一面を垣間見ることができ、在宅小児医療の現状、課題、問題点が浮き彫りにされ、我が歯科領域においても

様々な面で、関わりを持っていくことを暗示させる内容のものであった。

講演終了後は交流会へと移行し、それぞれのテーブルでは活発な意見交換がなされた。

閉会挨拶は、波田佳範本会中区支部長が、「今回の講演は在宅医療の新たな一面が見出されました。在宅医療はそれぞれの職域の垣根をこえて、ワンチームで取り組んでいく必要性を感じた次第です。」という旨の挨拶がなされ、お開きとなった。

なおこの研修会には、中区支部より波田支部長、辰本将哉氏、橋本佳子氏、森田薫氏、若林大輔氏が出務した。



(左) 正岡亨中区医師会会長と講師の濱本千春氏を囲んで
(右) 閉会の挨拶を行う波田佳範中区支部長

東区支部

丸山自治会介護予防講座

二葉地域包括支援センターと丸山自治会は共催で、今年度6回の介護予防講座を開催している。講座はフレイル対策のカギである「運動」「口腔」「栄養」などについて、専門職から学ぶことを目的として企画されている。

1月21日(火)午前11時より丸山集会所にて細原賢一氏が「健康なお口で健康寿命をのばしましょう」と題して講演を行った。その中で、口腔の健康と機能を維持・向上することにより、全身の健康や、認知症と転倒の予防につながることを説明した。対象者は、丸山自治会に

所属する高齢者または介護予防に興味がある地域住民19名であった。

当地の地域住民の特徴として、独居の高齢者が多いことが挙げられる。また、土砂災害警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域に指定された住宅もあることから、高齢者の閉じこもりを予防し、日ごろの住民同士の交流と助け合いを活発にする必要がある。そのためには、住民がフレイルについて理解し、対策を講じることが求められる。本講座により、丸山自治会の住民が健康で活動的な高齢期を過ごせるようになることを期待する。



講座の様子

南区支部

宇品・似島地域包括支援センター主催介護予防教室

宇品・似島地域包括支援センターが広島市地域介護予防拠点整備事業の一環として主催する介護予防教室「うじな介護予防&健康アップ教室」が1月16日(木)午後2時より宇品公民館で開催された。有馬隆本会理事が「人生100年時代を楽しく過ごすための『飲み込む力』アップのススメ」と題する講演を行った。

講演では、最初にオーラルフレイルと全身のフレイルの関連やオーラルフレイルの予防を通じた健康寿命の延伸、かかりつけの歯科医院での定期健診受診の重要性等について説明した。さらに、「ペコぱんだ」や「あいうべ体操」、「かみかみ百歳体操」等を紹介し、嚥下機能を維持・向上して誤嚥性肺炎や食物による窒息を予防することの重要性を説明した。最後に宇品・似島地域包括支援センターの泉本美紗氏が挨拶をして閉会した。

講演後は「口の動きが軽くなったような気がする」という感想もあり、参加者に日常生活での口腔機能の不活

発さへの気付きや口腔の健康への関心の高まりが得られたことが伺われた。

地域歯科保健部は今後も継続して地域に根ざした介護予防事業を推進し、口腔機能維持の重要性を啓蒙することとしている。



講演をする有馬隆理事

令和2年 南区支部理事会

1月17日(金)午後7時30分に、年が明けて初めての南区理事会を開催した。

報告事項として、年末の休日救急診療は30日に担当したトーマス歯科は来院人数31名、31日に担当したふるたに歯科が21名との報告があった。

また、新年互礼会に出席した古谷知之南区支部長より互礼会についての報告があった。

その後協議事項に入り、入会申請の出ている岡崎文彦氏についての協議、2月に行う予定の南区支部学術講習会の日程、内容についての協議、来年度の1才6か月児健診・3才児健診及び歯科相談・歯周病予防教室の担当割り当てについての協議、来年度の南区支部お花見の会についての協議を行い閉会とした。



南区支部理事会の様子

各部からの報告

総務部

広島市医療安全推進協議会より —こんな医療トラブルが起きています—

広島市医療安全支援センターに寄せられる苦情・相談の現状について具体的相談事例を報告します。なお、個人情報保護の観点から、相談者の個人特定が行われないように、相談内容に関しては、若干の修正を加えております。今後も毎月2～3事例ずつご紹介していきます。

事例3：奥歯の白色の冠について

かかりつけ歯科で奥歯の治療をしていた。「冠を銀色にするか、保険外の白色にするか。」と聞かれ、白色にした。まだ治療は終了していないが、今の段階で数十万円支払っている。先日、自宅近くで歯科が開業したので、奥歯の治療についてちょっと聞いてみた。「白色の奥歯でも保険はききますよ。」と聞いて愕然とした。今の歯科はまだ治療が残っていて、予約まで取っている。しかし、保険がきく歯にこれ以上お金を注ぎ込むのも馬鹿馬鹿しい。どうしたものか。

(センターの対応)

保険対応できる歯の冠をあえて自由診療の冠を勧められた、ということかと尋ねると「そうだ。」とのこと。しかし、あえて自由診療の冠を選んだのは相談者様。商品購入に関しての相談先は消費生活センターになるが、今後の治療継続について歯科医師会で治療のことを相談できるかもしれないので連絡先を伝えた。「もう弁護士に相談したほうがいいのかしら。」最終的にはそうなるかもしれないが、治療選択のためまずは相談してみることを勧め、併せて医療ADRの連絡先を伝えた。

(コメント)

選択可能な冠の種類については、過不足なく提示し説明しておかなければなりません。特に最近保険適応となった下顎第一大臼歯のCAD/CAM冠については、適応条件を確認の上、きちんと説明するようにしましょう。

事例4：医療ミスによって受けた精神的苦痛に対する補償は？

広島市在住だが、先月から暫くの間、市外にいる。歯科治療で医療ミスにあった。居住地の医療安全支援センターへ相談して歯科の治療費は返還され、他科の治療費は歯科が支払っている。ただ、精神的な苦痛に関して対応してくれない。精神病院へ通院していることもあり、結構落ち込んだ。精神的苦痛に対してはどうしたらいいのか。

(センターの対応)

歯科治療は医療的な事故は起き易い。事前はどう説明があったか、治療費の問題、過失を医師が認めるかがポイントになると伝え、治療費のことを考えれば、歯科医院はある程度の誠意は示されていると伝えた。精神的苦痛に対しては当事者間での話し合いで解決していくことになり、最終的には民事になる。医療ADRなどを伝えると、「そこまでは考えていないが、インターネットで調べてみる。」と言われた。歯科治療を確認すると、「紹介状があるので広島市の歯科へ相談する。」と言われた。

(コメント)

精神的苦痛に対する損害賠償請求は示談交渉もしくは民事訴訟になると思われませんが、歯科治療費が返還されていること、他科の治療費も歯科が負担していることを考えると、歯科医院は誠意をもって対応しているといえます。更なる補償請求に対しては、毅然とした態度で臨むほうが良いかもしれません。

学校の管理下の災害における歯の負傷

後編 「歯牙破折」の発生状況、「歯牙障害」の具体例等について

前編では、独立行政法人日本スポーツ振興センターが公表した「学校管理下の災害」と題する冊子（令和元年版）等を出典として、「学校の管理下における児童生徒等の災害」における「歯牙障害」の等級分類、発生件数等について報告いたしました。後編では、歯科関係で唯一単独区分が設定されている「歯牙破折」の発生状況、「歯牙障害」の具体例等について校種別に報告いたします。

1. 小学校

全学年において、歯牙破折の発生件数は男子が女子を上回りました(図1)。男女別学年別で見ると、男子では3年生の発生件数が最も多く、それに2年生、4年生が続きます。女子では2年生と3年生がほぼ同数で多く、4年生が続きます。男女共に、以降の学年では発生件数が減少する傾向にあります。また、図2及び図3から、小学校での「歯牙破折」は給食時間を含む休憩時間が最も多く、それに通学中が続くことがわかります。

小学校における「歯牙障害」の事例

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・下校時、曲がり角で自転車に乗った親子が自転車を止め児童たちの通過を待って左折しようとしていた。本児童は後方の友達を見ながら小走りしていたため、自転車に気が付かず、前を見ようと振り返ったときに、自転車のカゴに口元をぶつけ出血した。(小3男子) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・給食指導中、教師の指導の下、教室で給食の後片付けをしていた。片付けを終えて、自分の席に戻ろうとしたとき、床に落ちていた上履き袋を踏み、滑って前のめりに転倒し、机の脇の自分の椅子に前歯部を強打した。(小4女子) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・休憩時間に教室のうしろを小走りで友人のところに行こうとして、足を滑らせバランスを崩して、床に口を打ち付けた。(小6男子) |

2. 中学校

男女とも1年生及び2年生で「歯牙破折」の発生件数が多く、3年生が最も少ない結果になりました(図1)。また、全ての学年で男子での発生件数が女子のそれを上回りました。図4～6で中学校においてどのような場合に「歯牙破折」が発生しているかを検討すると、「球技」に分類される課外指導(クラブ活動)時、中でも、「バスケットボール」や「バレーボール」等の種目の活動時に発生件数が多いことがわかります。

中学校における「歯牙障害」の事例

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール部の朝の練習を、体育館で行っていた。3対3に分かれて、攻防の練習を行っていた。相手チームのボールをパスカットしようとしたときに、同じチームの生徒と接触した。その際、本生徒の口付近と接触した生徒のおでこがぶつかり、本生徒の歯が欠け、口唇を切った。(中2男子) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・(バレーボール)練習試合中に、体育館でボールをレシーブしようとして飛び込んだ際、床で前歯を打った。(中2女子) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・(サッカー)部活動の用具を倉庫に入れて、振り向いて走ろうとしたとき、倉庫の扉に顔を激しくぶつけた。(中1男子) |

3. 高等学校

男子では2年生で「歯牙破折」の発生が最も多く、1年生がそれに続きますが、3年生では減少します。女子でも1年生及び2年生が3年生と比べて発生件数が多くなりました。他の2校種と同様、全ての学年で男子の発生件数が女子のそれを上回りました。図7～9で高等学校においてどのような場合に「歯牙破折」が発生しているかを検討すると、中学校と同様、球技に分類される課外活動時における発生が最も多く、種目別にみると、これも中学校と同様、バスケットボールで最も多く発生していることがわかります。サッカー及び野球がそれに続きました。

高等学校における「歯牙障害」の事例

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール部の活動中、3対3の練習をしていたところ、リバウンドしたボールが顔面に当たった。(高1男子) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール部の活動中、ゲーム形式でディフェンスを行っていた。生徒二人が同時にボールを奪おうと飛びついた際、正面衝突し、自分の前歯と相手の額がぶつかった。さらに、ぶつかった勢いで体育館の床に後頭部を打った。(高3男子) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ノックの練習をしていたところ、ボールがイレギュラーで口に当たり、上唇が切れ、歯が3本飛んだ。(高3男子) |

4. まとめ

以上から、小学校での歯牙破折は、「休憩時間」や「通学中」などの学校の指導・監視が行き届きにくい場合に発生する傾向が窺われます。同冊子に掲載されている具体例を見ると、教室内の整理整頓や危険予測等の安全教育によって負傷の発生防止や発生時の障害の程度の軽減が可能な場合もあるように思われます。学校歯科医の立場からも児童や学校に対してそのような指導が必要でしょう。

これに対して、中学校や高等学校での「歯牙破折」は、共に球技に分類される課外指導時に最も多く発生しています。競技中の負傷発生は、その要因に偶発的な要素が占める割合が高く、安全教育は必須ですが、それによって防止することが困難な場合も少なくないように思われます。負傷の発生が多い種目での課外活動を行う生徒に対しては、加えて、マウスガードの着用等を指導することが重要になってきます。負傷の発生件数は競技人口の多寡と関連しますので一概に断定はできませんが、マウスガードの装着が義務化されているラグビーと比べて、それがまだ一般的とは言い難いバスケットボール、サッカー、野球などの種目において、発生件数が多くなっている印象もあります。学校歯科医をお務めの先生におかれましては、本記事前編・後編及び下記の資料等を参考に、担当校において、歯・口に関連する外傷の発生防止、発生時の対応等についてご指導いただけましたら幸いです。

参考資料

- ・「学校の管理下における歯・口のけが防止必携」(日本スポーツ振興センター、HP からダウンロード可能)
- ・「スポーツ活動中の歯・口のけがの防止と応急処置」(日本スポーツ振興センター、動画、YouTube にて視聴可能)
- ・「歯・口の外傷マニュアル」(日本学校歯科医会)
- ・「歯と口のけがへの対応法」(広島県歯科医師会、HP からダウンロード可能)
- ・「歯・口の外傷治療の実際」(広島県歯科医師会、HP からダウンロード可能)

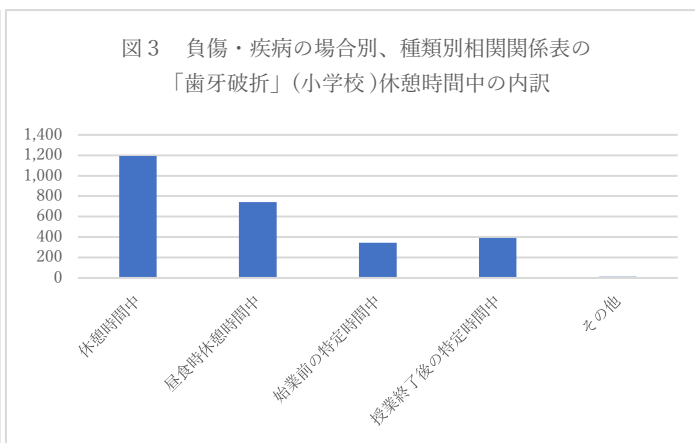
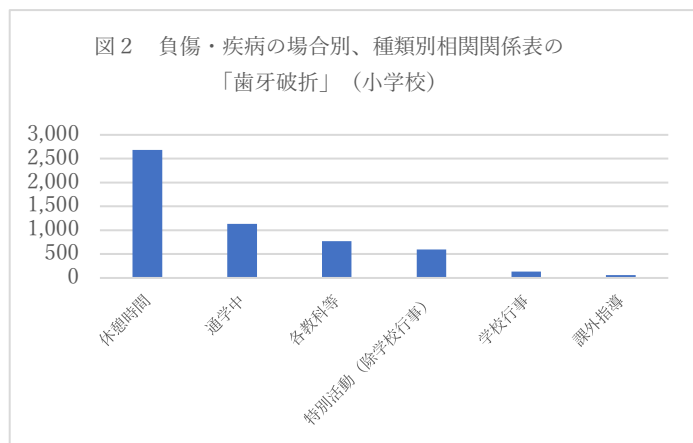
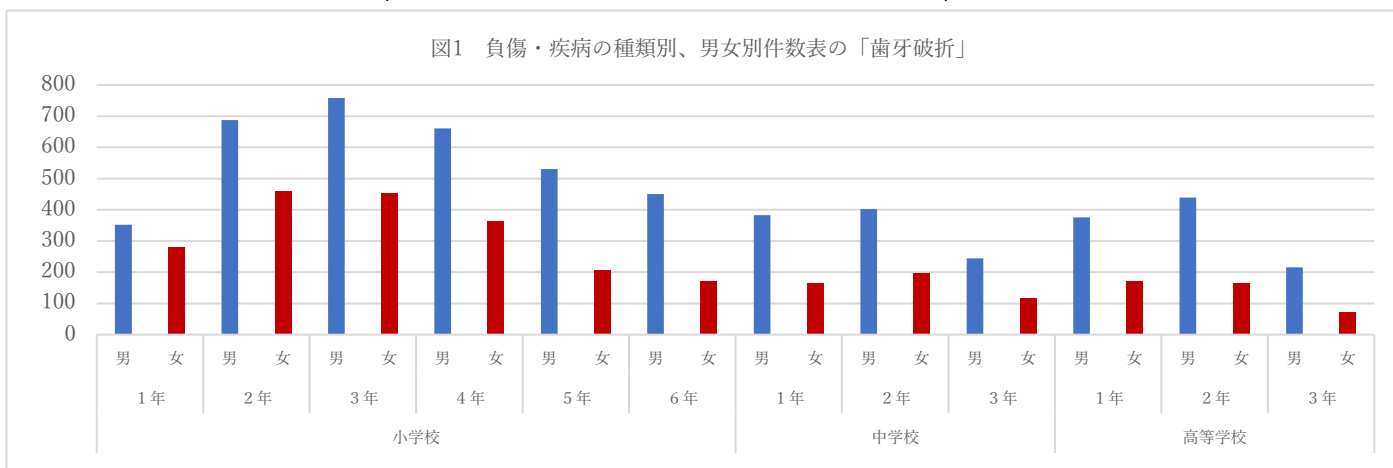


図4 負傷・疾病の場合別、種類別相関関係表の「歯牙破折」(中学校)

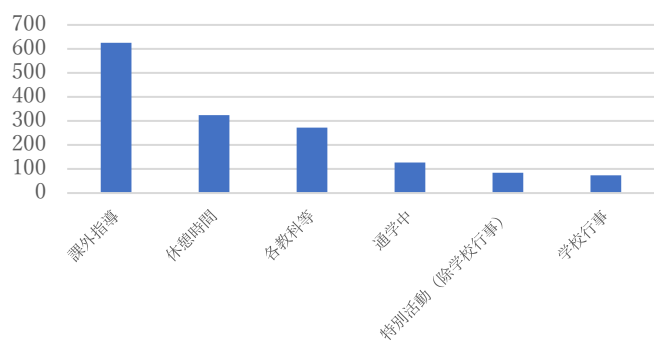


図5 体育的部活動別、負傷・疾病の種類別相関関係表の「歯牙破折」(中学校)の内訳

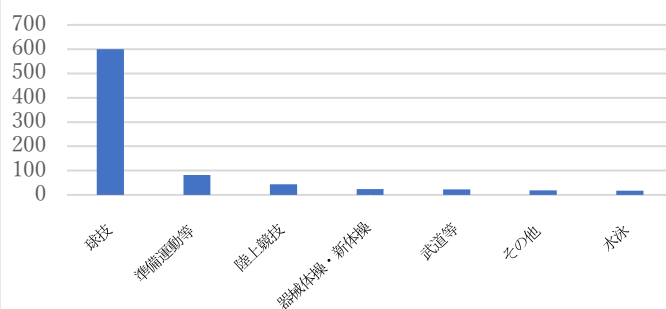


図6 体育的部活動別、負傷・疾病の種類別相関関係表の「歯牙破折」(中学校)の球技の内訳

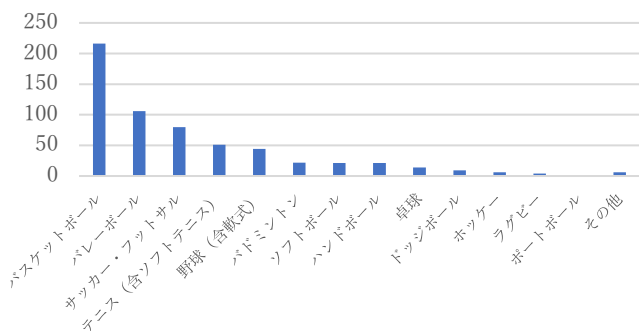


図7 負傷・疾病の場合別、種類別相関関係表の「歯牙破折」(高等学校等)

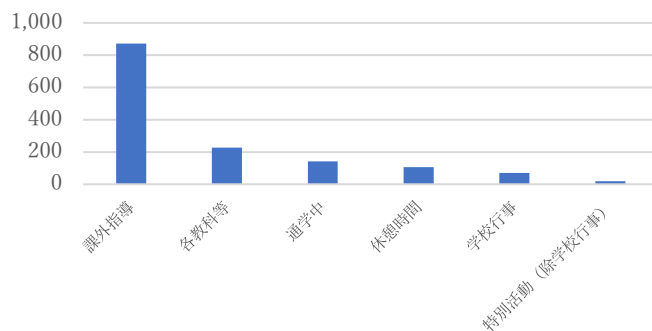


図8 体育的部活動別、負傷・疾病の種類別相関関係表(高等学校等)の内訳

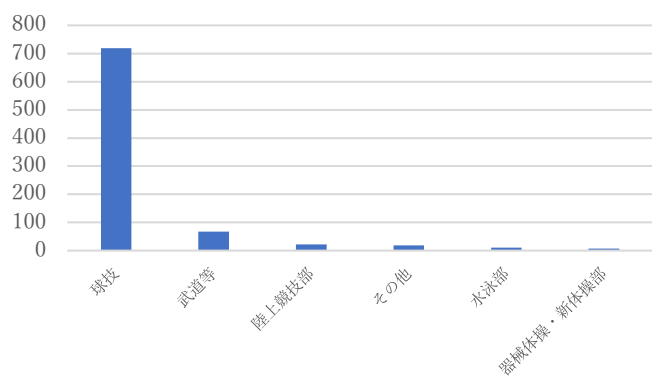
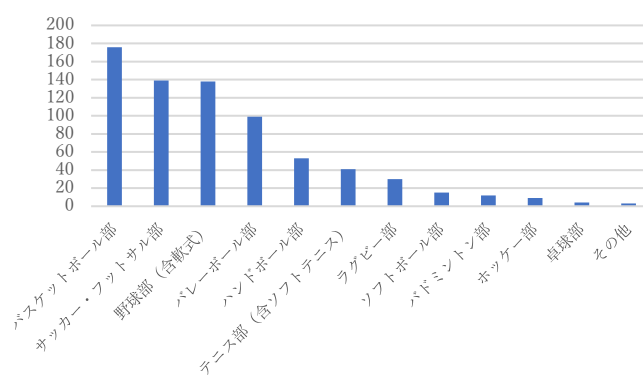


図9 体育的部活動別、負傷・疾病の種類別相関関係表(高等学校等)の「球技」の内訳



記事の確認は自己責任にてリンク先でお願いします。

最新記事はホームページにてご覧ください。

各記事のQRコードをスマートフォン等で読み取っていただければ、該当記事のページにアクセスできますが、リンク切れの場合はご容赦願います。

今月の知っておきたいこと

▼令和2年度改定に保険収載する技術に264件(1月9日)

Web 医療と介護 (2020年1月14日)

<https://info.shaho.co.jp/iryuu/trend/202001/9354>



中医協の医療技術評価分科会は1月9日、令和2年度診療報酬改定の医療技術の評価案を了承した。令和2年度改定で保険収載する優先度の高い技術として、743件を検討し、264件を選んだ(新規102件、既存162件)。学会などから提案のあった技術は258件。このうち、先進医療として実施されている技術は6件。先進医療として実施されており、保険収載の優先度の高い技術は、①神経変性疾患の遺伝子診断②泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術③角膜ジストロフィーの遺伝子解析④MEN1 遺伝子診断④腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術⑤多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療—となっている。

▼第447回 中央社会保険医療協議会 総会(公聴会) 議事次第

厚生労働省 第447回 中央社会保険医療協議会 総会(公聴会) 議事次第(2020年1月23日)

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000212500_00063.html



▼新規収載する医療技術264件を了承(1月22日)

Web 医療と介護(2020年1月23日)

<https://info.shaho.co.jp/iryuu/trend/202001/9397>



中医協は1月22日の総会で、令和2年度診療報酬改定で新たに保険収載する医療技術を了承した。全264件で新規技術が102件、既存技術が162件。

うち学会等から提案のあった技術は258件、先進医療として実施されている技術が6件となっている。評価対象としたのは743件で、479件は見送った。医療技術評価分科会の報告を了承したが、別に総会などで議論し合意されている技術も228件ある。例えば、「ギャンブル障害の標準的治療プログラム」や「予防的乳房切除術」などとなっている。

参考

厚生労働省 中央社会保険医療協議会 総会(第446回) 議事次第(再掲)

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000212500_00062.html

▼マイナンバーカードの保険証利用開始に協力を要請(1月17日)

Web 医療と介護(2020年1月21日)

<https://info.shaho.co.jp/iryuu/trend/202001/9388>



厚生労働省の濱谷浩樹保険局長は1月17日の全国厚生労働部局長会議で、マイナンバーカードを保険証として利用するシステムの整備予定のスケジュール等を説明した。マイナンバーカードを保険証として利用するには、市町村で住民が初回登録をする必要がある。

濱谷保険局長は、「マイナンバーカードを取得する際に、市町村の住民担当部局と国保担当部局が連携し、一連の流れとして初回登録をしてもらう。都道府県には、市町村の担当部局が連携できるように支援してもらいたい」と求めた。後日、関連の通知を发出する。医療機関がカード読みとり端末を用意するなどの準備について、医療情報化支援基金で国が支援する。「今後、できる限り早期に、補助基準や医療情報化支援基金を活用した医療機関等への支援手続きを周知する。夏頃から順次端末等の導入を支援していく予定」と述べた。都道府県に対しては、「管下の医療機関・薬局に対しカード読みとり端末の導入の働きかけをするなど、特段の協力をお願いしたい」と要請した。

参考

厚生労働省 令和元年度全国厚生労働関係部局長会議資料(再掲)

<https://www.mhlw.go.jp/topics/2020/01/tp0107-1.html>

説明資料 保険局

https://www.mhlw.go.jp/topics/2020/01/dl/14_hokenk_yoku-

https://www.mhlw.go.jp/topics/2020/01/dl/14_hokenk_yoku-02.pdf

ニュースピックアップ

▼歯周病がアルツハイマーの要因に 歯のケアで認知症を予防

沖縄タイムス+プラス 2020年1月9日

<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/519304>



「2025年には65歳以上の5人に1人、約730万人が認知症になる」と厚生労働省が試算しているのをご存じでしょうか。認知症の原因となる病気はたくさんありますが、中でもアルツハイマー病は有名です。しかしアルツハイマー病と歯科の関連性についてはあまり知られていないのではないのでしょうか。

◎年齢と共に気になるのが認知症です。自分や身近な人が認知症に、と考えるだけでも不安になりますが、歯周病の治療をするだけでアルツハイマー発症のリスクが抑えられるのであれば、自分も含め成人したら一度は検査を受けたいですね。

▼医師と歯科医 16人を処分

yomiDr 2019年12月19日



https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20191219-OYTET50010/?catname=news-kaisetsu_news

厚生労働省は18日、犯罪が明らかになった医師と歯科医師計16人の行政処分を発表した。

◎以前は医療行為や保険請求、従業員に対するパワハラ・セクハラ等がほとんどでしたが、最近はそのに加えて、酒気帯び運転やこの度は時代を反映してあおり運転など日常生活における違法行為も処分の対象となってきているようです。

▼原因不明肺炎への医療機関の対応を提示

日経メディカル 2020年1月10日

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/hotnews/int/202001/563817.html>



国立感染症研究所感染症疫学センターと国立国際医療研究センター国際感染症センターは1月10日、昨年末に中国武漢市で多発した原因不明の肺炎に対する医療機関の対応と院内感染対策を発表した。

◎世界には原因不明の病気がまだまだ多く存在しますが、最近話題の原因不明の肺炎もその一つです。中国と日本は人や物の交流が盛んでもあるため、他所の国の事と捉えず日本でも早急な対策が必要だと考えます。また原因特定と治療法の確立も急がれます。

▼アレルギーの原因食物、早めに与えた方がいいのはどんな子？

健康百科 2019年12月20日

<https://kenko100.jp/articles/191220005000/>



卵やピーナツ、乳製品などは食物アレルギーを引き起こしやすい食物として知られており、こうしたアレルギー性食物をいつから乳幼児に与えるべきかについては、さまざまな議論がある。英国で乳児を対象に行われた研究では、卵などを生後の早い時期から食べられることにより、食物アレルギーのリスクが高い乳児で、著しく発症が抑えられたという(J Allergy

Clin Immunol 2019; 144: 1606-1614.e2)。

◎花粉症をはじめとしてアレルギー疾患には多くの人が悩まされています。食物アレルギーを根絶させて、全員が同じ給食が食べられるといいですね。

▼iPSから血小板 京大チーム… 輸血時拒絶反応なし

yomiDr 2019年12月29日

https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20191229-OYTET50004/?catname=news-kaisetsu_news



遺伝子を自在に改変できるゲノム編集の技術を利用して、iPS細胞(人工多能性幹細胞)から、輸血時に拒絶反応を起こさない血小板を作ること成功したと、京都大iPS細胞研究所の江藤浩之(こうじ)教授(血液学)らのチームが発表した。

◎拒絶反応ゼロということが現実となれば画期的な研究となるかもしれません。まだまだ検証が必要かとは思いますが、今後に期待したいと思います。

▼マダニ感染症が100人 過去最多、高い致死率

産経ニュース 2019年12月18日

<https://www.sankei.com/life/news/191217/lif191217024-n1.html>



国立感染症研究所は17日、マダニが媒介する致死率の高い感染症「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」の今年の感染者の報告者数が初めて100人に達したと発表した。これまでは平成29(2017)年の90人が最多だった。

◎今年は西日本を中心に18都県から報告があり、山口県が11人と最も多く、徳島県が9人で、今年11月末までの報告を分析すると、患者総数492人の約14%に当たる69人が死亡との事です。発生地域は九州や西日本中心で発生しており、SFTSはネコなどペットから飼い主にうつることもあるそうです。要注意ですね。

▼腸内細菌の情報収集拡大 世界最大級データベース、病気予防に期待

産経ニュース 2020年1月7日

<https://www.sankei.com/life/news/200107/lif200107009-n1.html>



生活習慣と腸内細菌の関係を調べるため、国立医薬基盤・健康・栄養研究所は、健康な人から腸内細菌を集めて作ったデータベースを拡大する方針を決めた。現在の約1200人分から5年間で5千人規模に増やす。実現すれば世界最大級になる。

◎人の腸の中には多様な細菌がいて、その活動から生み出される物質が健康に大きな影響を及ぼしているとの報告がありますが、今回の研究では、日本人被験者についての最大級のデータを集めることを目標にしています。腸内環境が注目される中、今回のデータは非常に有用になると思います。今後に注目です。

▼介護事業者の収支悪化 人件費増が経営圧迫



https://www3.nhk.or.jp/news/html/20191228/k10012230941000.html?utm_int=nsearch_contents_search-items_005

介護サービスを提供する事業者の経営は、人手不足を背景に人件費が増加していることなどが原因で収支が悪化していることが、厚生労働省の調査で分かりました。

◎人手不足を背景にした人件費の増加が原因で、介護事業者の経営環境が厳しくなっているようです。厚生労働省は今後も実態を調査し、次の介護報酬改定の参考にしたいとのこと。歯科医院経営においても人件費が高騰しており、経営環境は厳しくなっています。その点も考慮に入れて診療報酬改定を行ってほしいものです。

▼松山市・きょう1日から 小中学生の通院費、待望の「無料化」

愛媛新聞 2020年1月1日

https://www.ehime-np.co.jp/article/news202001010038?utm_medium=social&utm_content=%2Farticle%2Fnews202001010038

愛媛県松山市は1日午前0時から子ども医療費助成を拡充し、通院費を含めた中学生までの医療費を無料化した。県内20市町のうち小中学生の通院費助成に手付かずだったのは松山のみで、保護者らからは歓迎の声が上がる。一方、市側は需要増による医療現場や財政への影響を懸念し、適正な受診を呼び掛けている。

◎松山市においても中学生までの医療費の窓口負担が無料となったようです。眼科や皮膚科、歯科などの受診で「無料になるまで待っている」という保護者もいたようです。窓口負担が受診抑制につながっていたと考えられます。むし歯等の受診抑制は、子どものその後の長い人生に大きな影響をあたえるので、受診しやすい環境にする必要があると思われれます。

▼心肺停止1時間半から生還、蘇生待ち人体を冷凍保存する人も【人体とテクノロジー】

ナショナルジオグラフィック 2020年1月2日



<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20200102-00010001-nknatiogeo-sctch>

曖昧になる生と死の境界、改めて問い直される「死」とは何か。人が死ぬとはどういうことか。心停止した人の蘇生や仮死状態の医療への応用の研究が進む今、死の意味が改めて問い直されている。

◎命の復活を信じて行われていたと言われる古代のミイラ作りですが、現代においても人間の考える事は同じですね。歯科領域では歯牙の冷凍保存技術が実用化されていますが、他の臓器ではどうなのでしょう？

▼15年間植物状態の男性の意識が回復、定説覆した電気刺激療法【人体とテクノロジー】

ナショナルジオグラフィック 2020年1月3日

<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20200103-00010001-nknatiogeo-sctch>

下半身まひの患者は電気刺激で歩行可能に。植物状態が1年以上続いた場合、回復の見込みはないとこれまで考えられてきた。だからこそ、自動車事故後に15年間植物状態だった男性が意識を取り戻したというニュースは驚きを持って受け止められた。脳は、そのように機能するはずがないのだ。

◎治療することのないとされた受傷後長時間経過した脊髄損傷も治る可能性が出てきたようですので、治療法の確立に期待している人は多いのではないのでしょうか。

▼110歳以上の人に特殊な免疫細胞 長寿の謎解明の一端に

メディカルトリビューン 2019年12月12日

<https://kenko100.jp/articles/191212004993/>

110歳以上の長寿者の血液を詳しく調べたところ、特殊な免疫細胞が多く含まれることが分かった、と理化学研究所と慶應義塾大学の共同研究グループが発表した。

◎いよいよ未来の医学は「不老長寿」へとつながるのでしょうか。はたして自分がその年齢まで元気で生きていられるか。でも、その前に100年生きたくするような社会への変革が必要かもしれませんね。





FM ラジオ「FM ちゅーピー76.6MHz」サイマルラジオスタート

「お口の健康広場デンタルパーク」 広島すまいるパフェ 第3・5水曜日午後0時50分から
2月5日放送分

「重要な乳歯のケア」

広島市歯科医師会 岡田浩幸氏

乳歯は生え替わるからむし歯になっても大丈夫と思っ
ていませんか。実は乳歯には子どもの体の発達や、健康
な永久歯が生えるためにとても大切な役割があります。
80歳までに20本以上の歯を残すためには乳歯の時期か
らのケアが重要です。広島市歯科医師会の歯科医師、岡
田浩幸さんが乳歯の役割やむし歯の予防法を話します。

2月19日放送分

「フッ素は歯を守る強い味方」

広島市歯科医師会 松村英朗氏

フッ素にむし歯予防の効果があることは、よく知られ
るようになってきました。今回はフッ素の歯への作用や、
フッ素を使う時の注意点などを広島市歯科医師会の歯科
医師、松村英朗さんが話します。

広報部より連載記事をぼちぼちと発信いたします。気長にお付き合いのほどを。

誰もが納得！ I L♥ve 広島弁じゃけえ。

～第4回～ ハシルって何だ??

開業して二年が経った二葉里志さんのクリニックは大雨にも関わらず今日も多くの患者で溢れています。患者さんとのやり取りやスタッフとの何気ない会話から広島弁をマスターするのみならず、広島市歯科医師会「だより」の連載で広島弁の勉強にも余念がありません。地域の患者さんにも信頼される二葉さんは心の底から「この職業を選んでよかった」と感じています。

初診来院した C さんは 60 代の男性、ニッカポッカ姿から一目見て職人と分かります。雨天のために現場での仕事がなくなったの来院と推察されます。問診票には「とりあえず今の痛みを取ってほしい」と力強い筆跡からも強い希望が見て取れます。待合室で 40 分ほど待った C さんは名前を呼ばれるや否や、ガニ股でニッカポッカを揺らしながら足早にチェアに腰掛けます。二葉さんは「C さん、今日はどこが痛みますか?」と他の患者さんと同じように柔らかい語り口調で尋ねます。C さん「左下の歯がハシルってハシルってやれんのですワ。はよーどーにかして下さい。アッ、麻酔はプチ効かせて!」と早口でまくし立てます。二葉さんはこの手の患者さんが苦手ですがそんなことは言ってもらえません。(左下の歯がハシル???ハシル?ハシル?...)繰り返すうちに二葉さんの頭の中では(走る～♪走る～♪お～れ～た～ち～♪)とサンブラザ中野の声が脳内リフレインを始めました。学生時代にバンドをしていた二葉さんは酔いが回ると爆風スランプの Runner をサンブラザ中野ばりに熱唱するのがお決まりのパターンなのです。と言ってもツルツパゲな訳ではありません(笑)。

広島県のみならず中国地方の広い範囲で「ハシル」=キリキリと痛む、身体の表面でシミるように痛むの意味で使われています。この場合、C さんは自発痛か鋭い冷水痛・エアー痛を訴えていると判断して良さそうです。C か Pul か Hys ですね。同じ意味の標準語で「痛みが走る」との表現がありますが、そこから「痛み」を省略した表現なのかもしれません。はたまた古くは「はしる」を「痛む」の意味で使っていた名残かもしれませんね。古語辞典を紐解くと、「はしる」=「胸が騒ぐ、不安や悲しみで胸の鼓動が激しく打つ」との記載がありましたので、そのあたりに由来があるのかもしれません。

※国語学的な知識を持たない一介の歯科医の見解であり、間違っているかもしれません(笑)。



走る～♪ 走る～♪

会員ひろば

新入会員紹介



吉田 昌弘

この度、広島市歯科医師会に入会させていただきました 吉田 昌弘 と申します。
中区紙屋町の医療法人社団みずほ会清水歯科医院の院長として入会しました。
松本歯科大学、日本歯科大学大学院を卒業し、縁あってみずほ会にお世話になりました。
臨床経験を活かし、歯科医師会、また、地域医療に貢献出来る様にしたいと思っています。
これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



河島 紘太郎

広島市歯科医師会の皆様におかれましては、ますますご清祥とのこととお慶び申し上げます。この度、広島市歯科医師会に入会させていただきました河島紘太郎と申します。

私は、2004年に広島大学を卒業後、福岡県での一般開業医勤務を経て、2009年に中区小町にて『ごこちデンタルクリニック』を開院致しました。

本会入会に際しましては、開業後10年も経過していたにもかかわらず、諸先生方には温かく迎えていただき、またご多忙の中お力添えいただきましたことに心より御礼申し上げます。まだまだ未熟で皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、地域医療に貢献できるよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



本川 雅英

この度、広島市歯科医師会に入会させていただきました、本川雅英と申します。

私の父は愛知学院大学を卒業後、広島大学歯科補綴第一講座で津留教授、国立呉病院で二宮先生に師事していたため、私は広島で生まれ、安佐 Zoo にも連れて行ったと聞いておりますが、あまり覚えておりません。育ちは長崎の大村という土地ですが、キリシタン大名として有名な大村純忠が治めていた土地です。小学校は、虎を放っても分からない程の原という放虎原小学校から当時ほぼ新設で不良の巣窟であった桜ヶ原中学を経て、大村高校へと進学しましたが、中高と長崎一の進学校である青雲高校の受験に失敗しております。高校卒業後は北九州予備校を経て、広島大学に入学させていただき、入学式の日には兄が硬式庭球部に所属していたため、当然のように拉致されてそのまま人生で初の本格的な部活動を経験いたしました。大学卒業後は広島大学矯正歯科学講座の丹根一夫教授、谷本幸

太郎教授に師事し、14年在籍後、縁あって今田義孝先生の今田矯正歯科を継承させていただく運びとなりました。奇しくも私の父と今田先生は同じ年齢ですが、自分への厳しさが対照的でありいろんな年齢の重ね方があるのだと教えられているようです。私も今田先生のように孤高でありたいと思いながら、父の様に気ままに生きれたら楽だろうなと思うこの頃です。

こんな私ですが、今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくよろしくお願い申し上げます。

1 月定例理事会報告

「部外報告」

- 1 2月27日 社会保険診療報酬支払基金再審査
1 月 9日 広島デンタルアカデミー専門学校新年
挨拶来館
" 広島市医師会 New Year Party 2020
1 月16日 広島県歯科衛生士会新年挨拶来館
1 月18日 (県)認知症対応力向上研修会
" 国保連合会歯科再審査部会
1 月19-23日 国保連合会歯科審査部会
1 月20日 広島大学二川浩樹教授との協議
1 月21日 広島市行政新規事業協議会
(アウトリーチ説明会)
1 月21-27日 社会保険診療報酬支払基金審査
(合議 27日)

(連盟関係)

- 1 月18日 岸田文雄後援会新年互礼会

(総務関係)

- 1 2月27日 外構草取り
1 2月28日 仕事納め
1 2月30日 新年互礼会打合せ
1 月 4日 初詣(広島東照宮)
" 臨時理事会
" 新年互礼会
1 月 9日 第2回学術講演会(シリーズⅡ)
1 月17日 中区支部1班新年会
1 月21日 三役会
1 月22日 定例理事会

(慶弔関係)

- 1 1月 2日 中区支部 荒川信介先生
厚生労働大臣表彰
" 中区支部 芦浦文佳先生
日本歯科医師会会長表彰
1 月 9日 西区支部 北本純司先生ご逝去

(入会退会関係)

- 1 2月31日 南区支部 武田明信先生退会
" 西区支部 熊谷友先生退会
1 月 8日 入会後面談(本川雅英先生)、
入会前面談(岡崎文彦先生)

(県歯理事会関係)

- 1 月 9日 県歯理事会

(1) 総務部 (森本理事)

- 1 月 4日 臨時理事会
" 新年互礼会
1 月 8日 休日診療レセプト点検
" 入会後面談(本川正英先生)、
入会前面談(岡崎文彦先生)
1 月 9日 第2回学術講演会(シリーズⅡ)
1 月10日 定例委員会
1 月16日 (県)保険部常任委員会
休日診療保険請求における留意事項に
ついて

(2) 学術部 (花岡理事)

- 1 月 4日 臨時理事会
" 新年互礼会
1 月 9日 第2回学術講演会(シリーズⅡ)
1 月10日 定例委員会
1 月20日 喀痰吸引研修会講師と打合せ

(3) 厚生部 (谷理事)

- 1 2月30日 新年互礼会打合せ
1 月 4日 臨時理事会
" 新年互礼会
1 月 9日 第2回学術講演会(シリーズⅡ)
1 月14日 厚生部定例委員会
1 月18日 岸田文雄後援会新年互礼会

(4) 地域歯科保健部

- 1 月 4日 新年互礼会
1 月15日 (県)地域保健部、学校保健部、
介護・福祉医療部常任委員会
1 月17日 定例委員会
1 月18日 (県)認知症対応力向上研修会

<学校保健> (有馬理事)

- 1 月16日 宇品公民館介護予防教室
1 月22日 宇品東保育園講演会
・歯鏡等の滅菌配送業務について
・令和2年度学校歯科医協議会について
・広島市立学校での歯科保健状況調査
(所謂、「口腔崩壊」調査)について
・令和元年度 保育施設での歯科疾患
及び歯科保健活動の実態調査会議に
ついて
・令和元年度臨時健康診断及び就学時
健康診断について
・令和2年度定期健康診断について

<地域保健> (若林理事)

- 1 月 9日 令和元年度広島市歯科医師会第2回学
術講演会

<地域連携> (藤田理事)

- 1 月 7日 3歳児健診
" 西区地対協主催「西区在宅医療・介護連
携推進委員会 事例検討会」事前打合せ
" 西区医療介護連携推進委員会
1 月18日 広島県歯科医師会認知症対応力向上研
修会講師
1 月20日 喀痰吸引研修会事前打合せ
1 月21日 広島市行政・歯科衛生士会と協議

(5) 広報部 (水内理事)

- 1 2月30日 新年互礼会打合せ
1 月 4日 新年互礼会
1 月 7日 校正委員会
1 月 9日 第2回学術講演会(シリーズⅡ)
1 月14日 情報調査委員会
" 南区地域ケアマネジメント会議
1 月20日 FMちゅーピー

FMちゅーピー (新聞掲載)

2月 5日 「重要な乳歯のケア」
広島市歯科医師会
岡田浩幸氏

2月19日 「フッ素は歯を守る強い味方」
広島市歯科医師会
松村英朗氏

(6) 広島市歯科医師会ホームページについて

ホームページアクセス数
一般サイト 訪問者 2,397 (累計 142,221)
ページビュー 9,882 (累計 478,197)
会員サイト 訪問者 179 (累計 28,756)
ページビュー 530 (累計 215,438)
広報部 … Talking Heads<最新情報>
掲載件数 41件(12/21~1/20)

(7) 特別委員会

(8) 救急蘇生委員会

日程調整中

(9) 各部事業計画について

2月理事会にて検討

(10) 歯科医療安全相談

1月 8日 相談 外国矯正患者初診料について(本会会員)

1月14日 相談 パノラマ撮影の方法について(40歳代男性)

「協議事項」

- (1) 会費について (1名)
終身会員資格取得による会費額変更について
1名承認。
- (2) 入会について (1名)
南区支部の岡崎文彦氏の入会について承認。
- (3) 退任嘱託歯科学校医への感謝状贈呈について
協議・承認
- (4) 山田小学校学校歯科医選任について
北本純司氏の後任に二川陽子氏を推薦することを承認。
- (5) クリスマスパティーについて
改善点協議
- (6) 新年互礼会について
改善点協議
- (7) だよりと「太田川」について
月報投稿記事量の協議と太田川記事の締切確認
- (8) 令和2年度事業計画案・予算案について
継続審議
- (9) その他
休日歯科救急 4地区輪番制による負担分担案に
ついて
協議・継続審議

「その他」

特になし

会員の皆様へ

広島市歯科医師会だよりに関するご意見やお問い合わせは、各記事に担当部がある場合は、担当部の理事あてにお願いします。それ以外については、広島市歯科医師会事務局ないしは広報部担当理事水内裕之までお寄せ下さい。

広島市歯科医師会事務局 E-Mail: hiroshima@dentalpark.net

広報部担当理事 水内裕之 E-Mail: mizuuchi.shika@gmail.com

広島市歯科医師会ホームページ

<http://www.hiroshima-da.com/>

会員専用ページ

ユーザー名 : **Futaba**

本会PASS : **2622662**

協議会PASS : **welfare**

投稿記事締め切りは**毎月 25日**です。

ご協力をお願いします。

事務局までメール(上記)投稿

お願いします。

広島市歯科医師会の住所及び連絡先

〒732-0057

広島市東区二葉の里3丁目2番4号

広島市歯科医師会 TEL : 082-262-2662

FAX : 082-262-2668

休日診療専用電話 TEL : 082-262-2672

